

浅井北だより

ウェブ版はこちら→



☆よく考え自ら学ぶ子 きまり正しく心豊かな子 健康でたくましい子☆

令和5年 1月号

子どもは伸びていくものだから

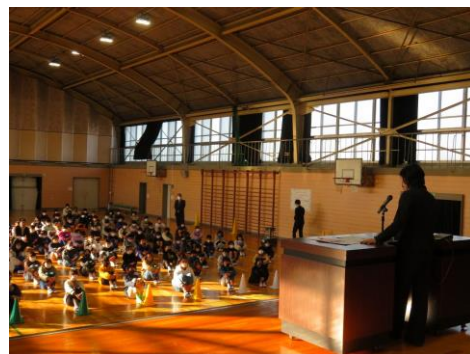


2023年が幕を開けました。本年もよろしくお願いいたします。

かつて担任をしていた頃、学校経営が自分の思い描いていたように進まず悩んでいた時、先輩の先生から「子どもは伸びていくものだから」と声をかけていただきました。その後、学級で子どもたちの気になる様子を目にするたびに「子どもは伸びていくものだから」と心の中で何度となく唱え、声をかけ続けました。「伸びていく」と信じることで、子どもたちのちょっとした優しさや成長に気が付けるようになり、そのことがとてもうれしく、自身の励みになっていったことを思い出します。教職員一同、子どもたちの成長を見つけ、見守り、よき伴走者として、子どもたちとともに、年度末のゴールを目指して走り続けようと思います。

対面での始業式

3学期の始業式は、低・高学年の2部制の対面形式で行いました。新しい年を迎え、子どもたちには一堂に会した場で1年を始めたい、また、一人一人の顔を見ながら話をしたいと考えたからです。低学年の部に参加した3年生以下の子どもたちにとっては、屋内運動場での始業式は初めての経験となります。互いの気配を感じながら、時にはうなずいたり、返答したりしながら、熱心に話を聞いてくれました。また、高学年の部の子どもたちはたいへん落ち着いた態度で、一心に目と耳で話を聞いてくれました。こうした子どもたちの姿を見ながら、子どもたち一人一人の「伸びていきたい」という思いに真摯に寄り添い、応援していきたいとの思いを改めて強くしました。



3学期は約50日の登校となります。教職員一同、子どもたちとともに1日1日を大切に、少しでも前進ある浅井北小学校としていきます。

肯定的な未来を描くために

12月27日に自主研修会「キャリアデザイン講座」に参加をしました。「キャリア」というと様々なイメージがありますが、この講座では「キャリア＝人生」ととらえ、肯定的な未来を描く方法について実技と講義により学びました。よりよい人生を送るためには、まず、過去・現在を肯定的にとらえることが大切であることをグループディスカッション等で学び、その後各自で肯定的な未来を考えました。自分を受け入れ、肯定的な未来を描くために大切なポイントを以下にまとめましたので、ご紹介させていただきます。子どもたちと接していく中での働きかけや、見方・考え方にも生かしていけるヒントにきっとなると思います。

- 自己承認できることが大切…「自分にはいいところもあるけど、ダメなところもある。そんな自分でいいよね」と思えるようにすること
- 自分にとっては「当たり前」のことでも、他人にとっては「すごい」ことかもしれない
例：(あたり前) 家族のために、焼そばを9玉分、2つのフライパンで一度に作っている
(すごい!) 食事を作ることや、2つのフライパンに分けて一度に作れるなんてすごい!
→自分にOKが出せる…人と「比較」するのではなく、「承認」すること
「やってみよう」「できるかも!」という意欲が出る
- 過去に対する解釈は、自分でいくらでも変えられる
肯定的な意味づけ→「〇〇があってよかった」…明るい未来を自然にイメージできる
否定的な意味づけ→「〇〇がなければ今頃…」…明るい未来がイメージできない
- 未来を肯定的に語る(幸せな人生を妄想する)ことが大切
「～したい」→手に入れたいものを自然にイメージできる
「～したくない」→手に入れたくないものをイメージしてしまう